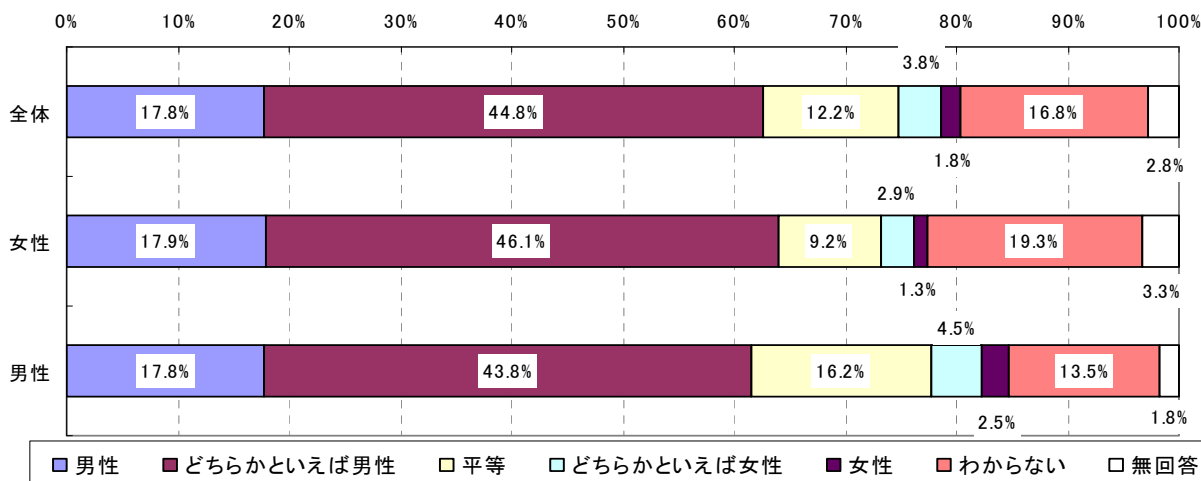


## 2 男女共同参画について

### 1 男女平等意識

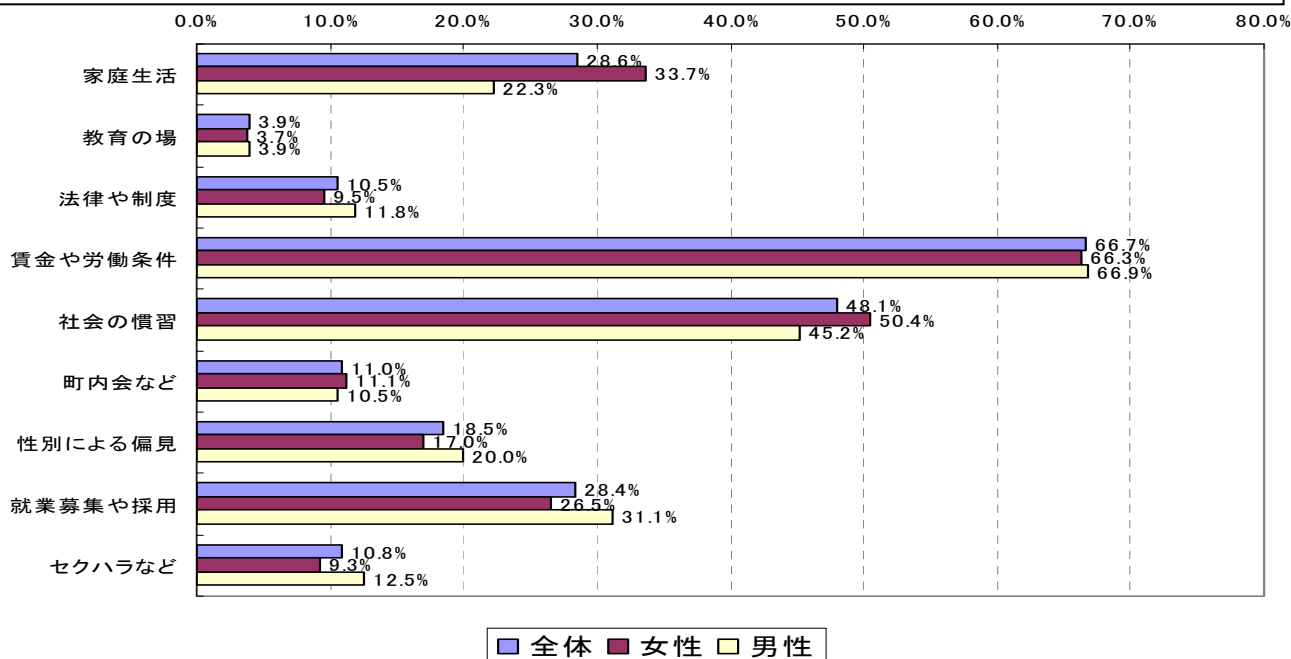
問8 あなたは社会全体における男女の地位について、どちらが優遇されていると思いますか。



「平等」と思っている市民は12.2%だけで、男女の地位について62.6%が「男性の方が優遇されている」と考えています。また、男女別に見ると、女性が「男性の方が優遇されている」と考える割合が64.0%と高く、男性でも61.6%が「男性の方が優遇されている」と考えています。

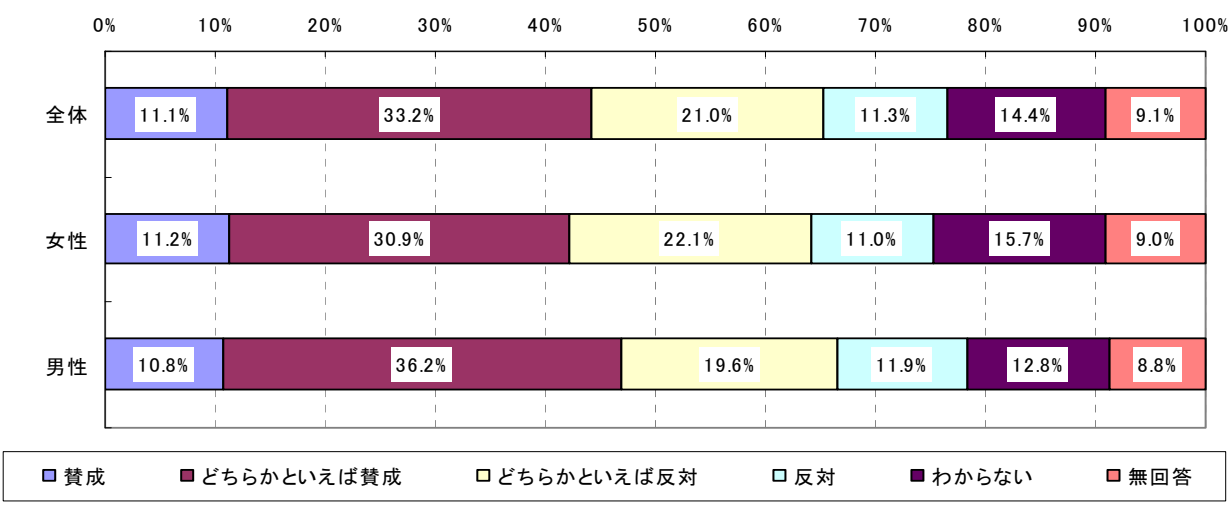
「既に女性が十分強くなっている」などと言われることもありますが、実際は大多数の人が「男女は平等ではない」と考えています。

問8-1 どのような場合に平等ではないと感じますか。(複数回答)



不平等と感じるのは、「賃金や労働条件などの待遇面」が66.7%で最も多く、次に「社会の慣習」で48.1%でした。男女の相違が顕著だったのは「家庭生活」。男性の22.3%に対し、女性は33.7%と11.4ポイント高い結果であり、家庭生活における意識の隔たりには深いものがあるようです。

問9 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方についてどう思いますか。

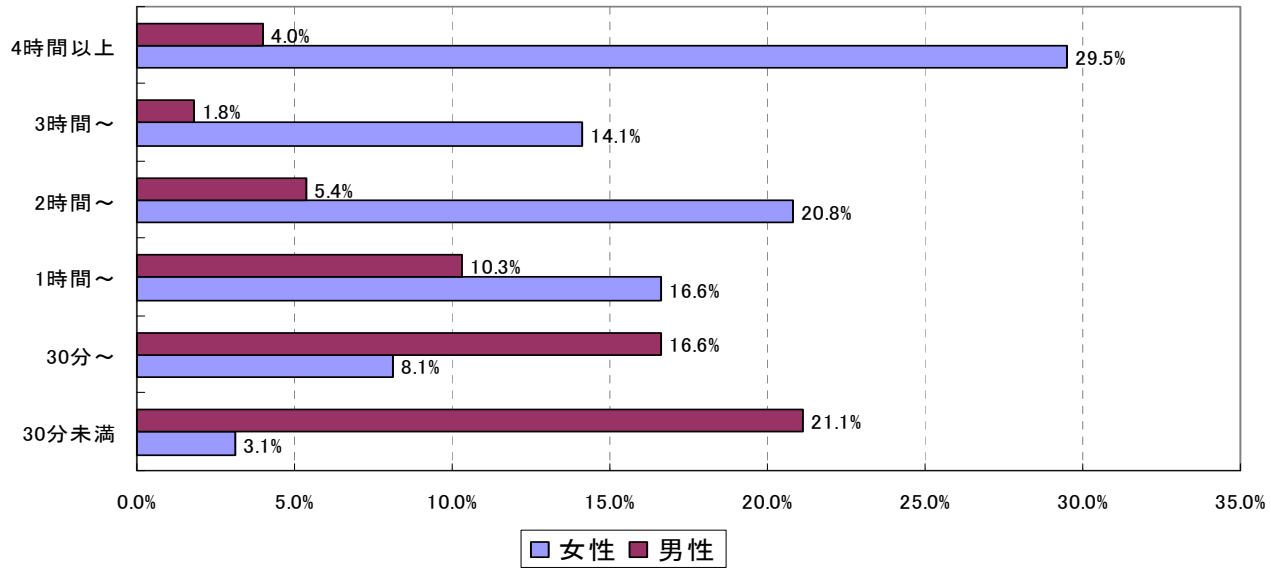


「賛成」と「どちらかといえば賛成」は、44.3%となっています。一方、「反対」と「どちらかといえば反対」は32.3%でした。

同様の調査は内閣府の世論調査（平成19年）でも実施されており、そちらの結果は、「賛成」と「どちらかといえば賛成」が44.8%、「反対」と「どちらかといえば反対」は52.1%となっており、反対が多数となっています。

## 2 生活時間

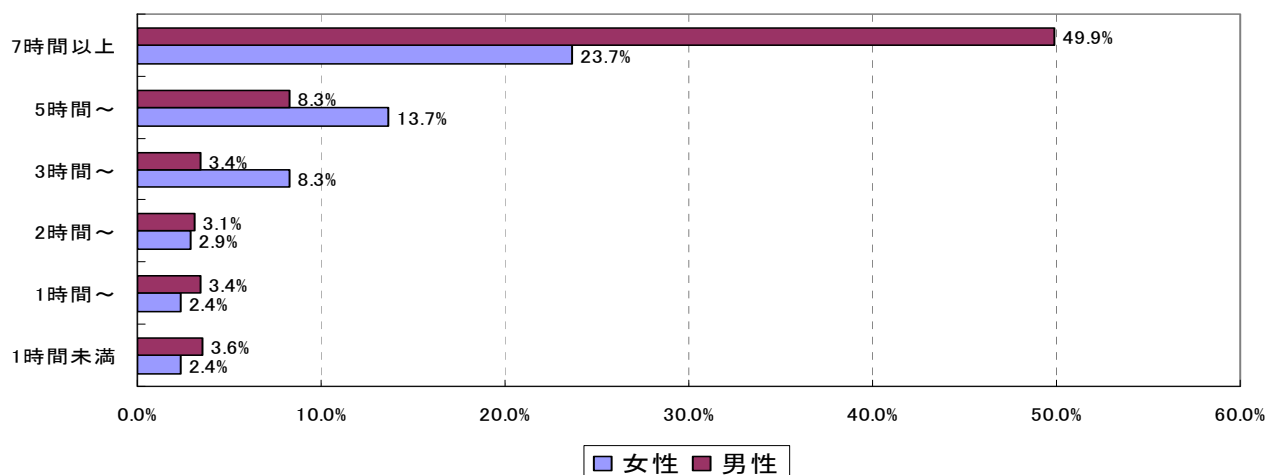
問10 あなたの1日の家事時間はどのくらいですか。



家事を少しでもする割合は、女性が92.2%、男性が59.2%と非常に偏っており、更に1時間以上家事をする割合では、女性が81.0%、男性が21.5%と著しい違いが見られます。

また、「共働き世帯」を抽出したところ、家事を少しでもする割合は、女性が98.5%、男性が51.1%、1時間以上家事をする割合では、女性が95.1%、男性が15.9%であり、共働き世帯において差が大きくなっているという意外な結果となっています。

問 1 1 あなたの1日の仕事時間はどのくらいですか。



就業している人の割合は、全体で 61.1%、男性が 71.7%、女性が 53.3%となっていますが、就労時間7時間以上では、男性が 49.9%、女性が 23.7%となっており、就業者に占める割合ではそれぞれ 69.6%、44.4%となり、時間外労働や休日出勤の実態が伺えます。

### 3 介護

問 1 2 あなたは、これまで直接家族や親族のどなたかの介護を体験したことはありますか。  
(複数回答)

		全 体 (性別無回答含む)		女 性		男 性	
介護をしたことがある	自分の親	202 人	19.9%	110 人	19.9%	88 人	19.8%
	配偶者の親	132 人	13.0%	115 人	20.8%	10 人	2.2%
	配偶者	73 人	7.2%	53 人	9.6%	19 人	4.3%
	その他の家族・親族	92 人	9.1%	59 人	10.7%	29 人	6.5%
介護をしたことがない		556 人	54.7%	263 人	47.6%	289 人	64.9%

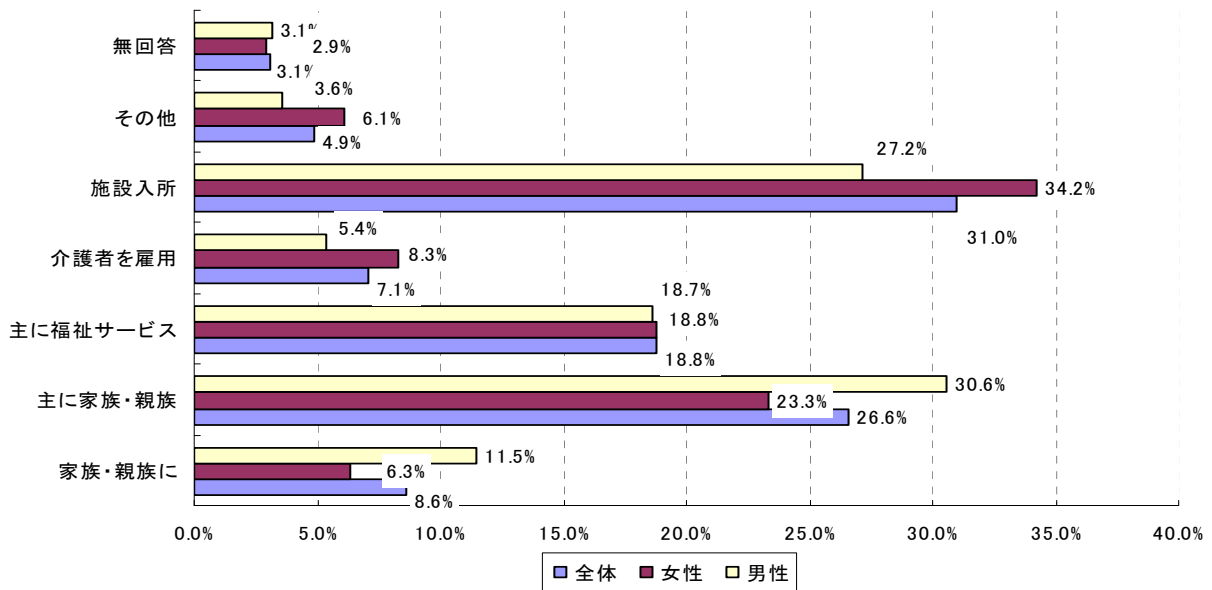
介護をしたことがあるのは、男性では 35.1%、女性では 52.4%であり、介護を女性が行うことの方がかなり多くなっています。

問 1 2-1 あなたは、介護のために、次のようなことがありましたか。(複数回答)

	全 体 (性別無回答含む)		女 性		男 性	
仕事を辞めた	74 人	14.8%	58 人	17.2%	13 人	8.9%
地域活動などの社会活動をやめた	53 人	10.6%	34 人	10.1%	18 人	12.3%
趣味や習い事をやめた	117 人	23.4%	90 人	26.7%	25 人	17.1%
その他	119 人	23.8%	73 人	21.7%	43 人	29.5%

全体の回答者の男女別で見ると、男性の回答者のうち介護をするために「仕事を辞めた」のは、8.9%に対し、女性は 17.2%でした。すなわち、女性は 6 人に 1 人が介護のために仕事を辞めていることとなります。「その他」としては、「仕事を休んだ(休暇をとった)」、「家族が仕事を辞めた」などです。

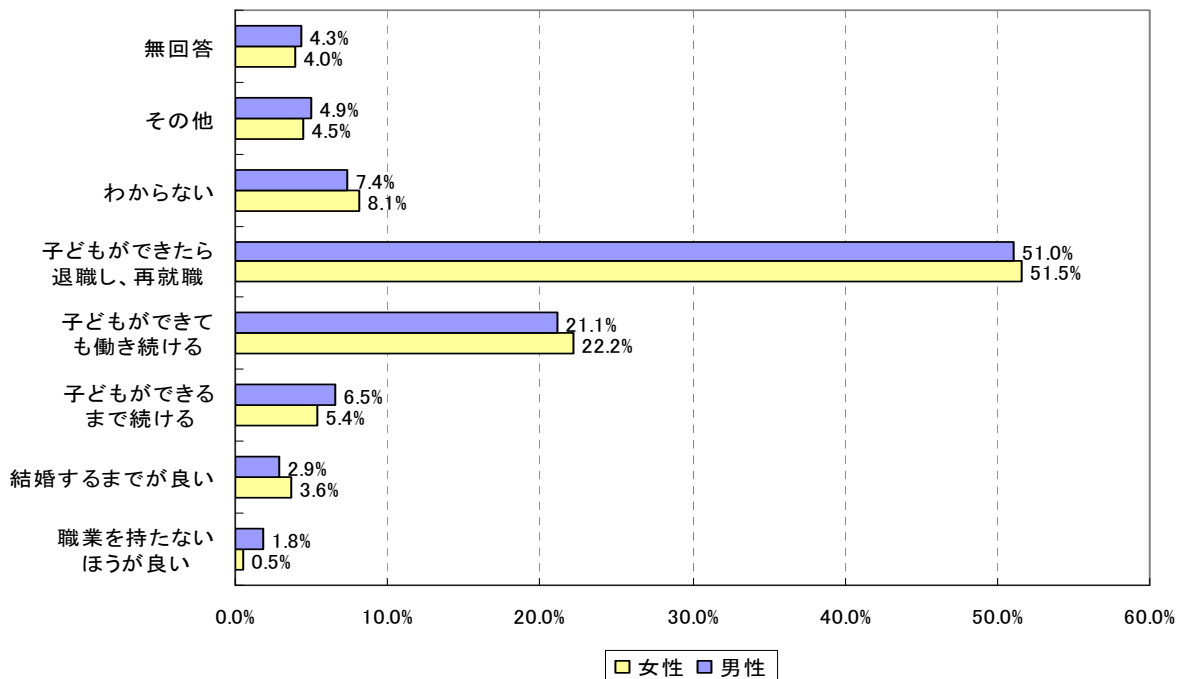
問13 あなたが、もし介護が必要となった場合は、どのようにしたいと思いますか。



「家族・親族に介護してもらおう」と「主として家族・親族に介護してもらい、足りない部分は在宅福祉サービスを利用したい」と考えている方は、全体では35.2%ですが、男性では42.1%、女性で29.6%と、男性の希望が多くなっています。反面、施設入所は、全体では31.0%ですが、男性では27.2%、女性で34.2%と、女性の希望が多くなっています。

#### 4 女性と仕事と子育ての両立

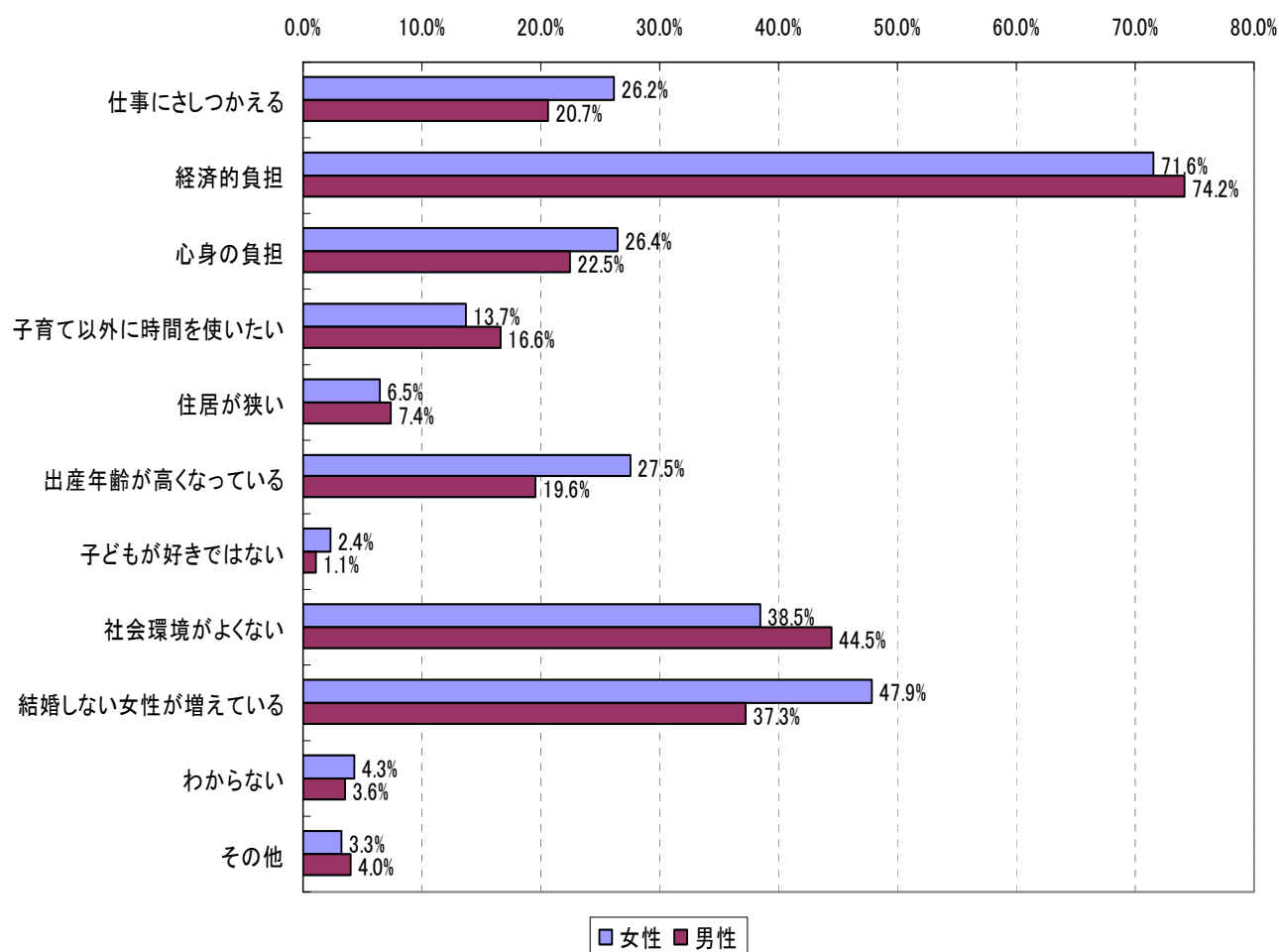
問14 あなたは、女性の就業と結婚・育児についてどう思いますか。



男性、女性とも、「子どもができれば退職し、子どもが大きくなったら再び職業を持つ方がよい」と考えている方が最も多く、男性では 51.0%、女性では 51.5%でした。次いで、「子どもができてからもずっと職業を持ち続ける方がよい」という結果になりました。

なお、内閣府が行った世論調査（平成 19 年）では、「子どもができてからもずっと職業を持ち続ける方がよい」と考えている方が 43.4%と最も多く、次いで「子どもができれば退職し、子どもが大きくなったら再び職業を持つ方がよい」が 33.0%という結果になっています。

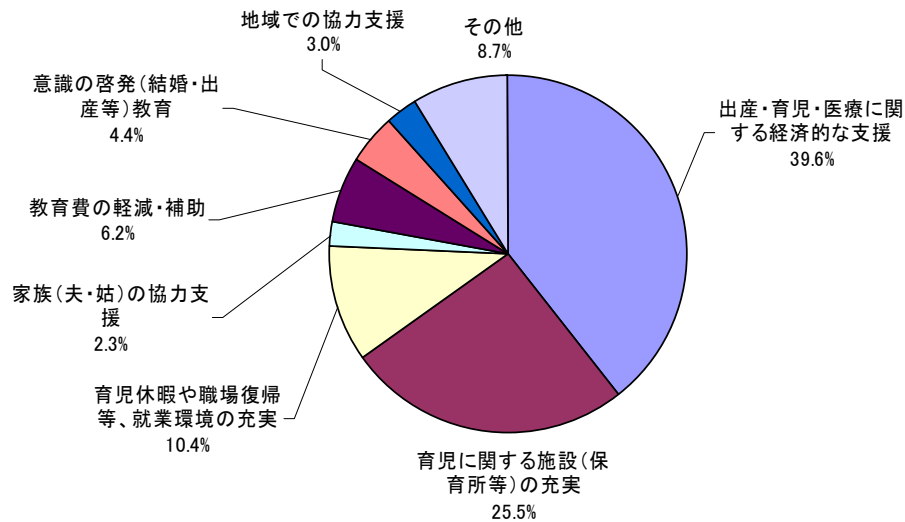
問 15 今、女性が一生のうちに産む子どもの数が少なくなっていますが、その原因はどこにあると思いますか。（複数回答）



これは少子化の原因ということになりますが、男女とも第1位は「経済的負担が増えるから」で、7割以上の方がこれを選んでいますが、次いで、「結婚しない女性が増えている」や「子どもを産み育てる社会環境がよくないから」となっています。

また、「結婚しない女性が増えているから」や「出産年齢が高くなっているから」といった未婚化・晩婚化を理由とするもののほか、「仕事にさしつかえる」「心身の負担」を挙げる女性の比率が高くなっており、出産育児の負担が女性に重くのしかかっている現状がうかがえます。

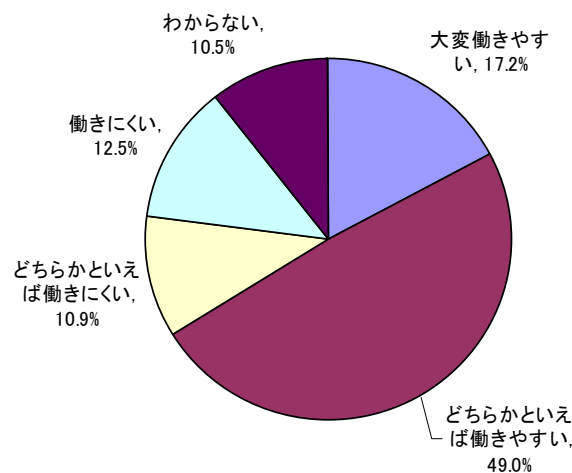
問 1 6 子どもを産み育てやすくするためには、どんな支援があったらよいと思いますか。



この設問には、583 人の方から 710 件のご意見をいただきました。出産・育児・医療に関する経済的な支援 (39.6%)、教育費の軽減・補助 (6.2%) といった経済的支援が 45.8% を占め、保育所等の育児に関する施設の充実は 25.5% となっています。

## 5 職場環境等

問 1 7 あなたの職場は、仕事と家庭を両立するのに、働きやすい職場だと思いますか。



「大変働きやすい」、「どちらかといえば働きやすい」を合わせると、66.2%の方は働きやすいと考えています。一方、「働きにくい」、「どちらかといえば働きにくい」を合わせると 23.4% となりました。

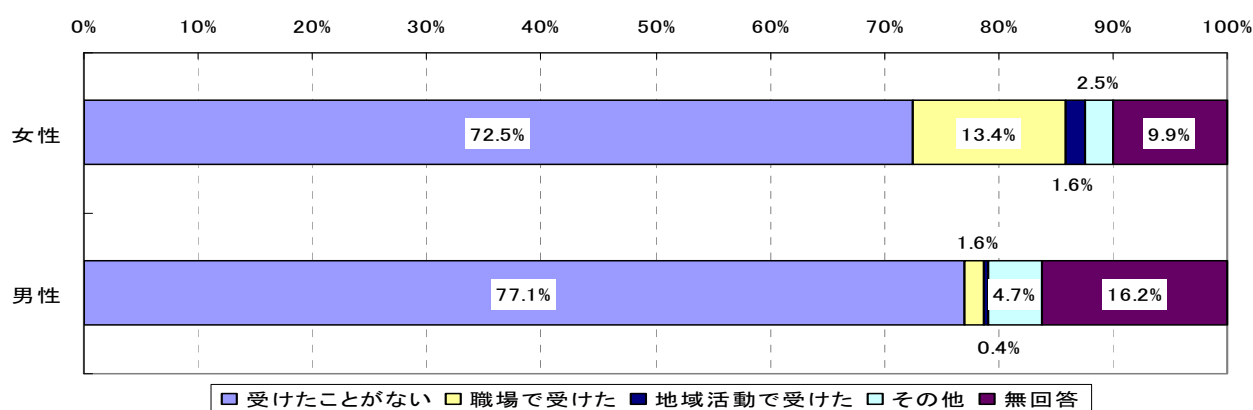
働きやすい理由の内訳では「勤務時間や休暇制度の整備など、就業環境」が 45.9%、「職場（経営者や同僚）の理解」が 27.0%、「自営だから」が 15.1% でした。

また、働きにくい理由としては、「残業や休日出勤が多い」、「有給休暇があっても、思うように使えない」、「三交代で残業が多い」などの労働条件の悪さを挙げた方が 80.2%、「上司の理解が無い」「休める雰囲気でない」などの人間関係を原因に挙げた方が 12.3% という結果でした。

	全体（性別無回答含む）		女性		男性	
大変働きやすい	87人	17.2%	44人	18.2%	41人	16.0%
どちらかといえば働きやすい	248人	49.0%	120人	49.6%	127人	49.4%
どちらかといえば働きにくい	55人	10.9%	23人	9.5%	32人	12.5%
働きにくい	63人	12.5%	28人	11.6%	32人	12.5%
わからない	53人	10.5%	27人	11.2%	25人	9.7%

## 6 セクシュアルハラスメント

問18 あなたはこれまでセクシュアル・ハラスメントを受けたことがありますか。  
あるとするとどこでありましたか。



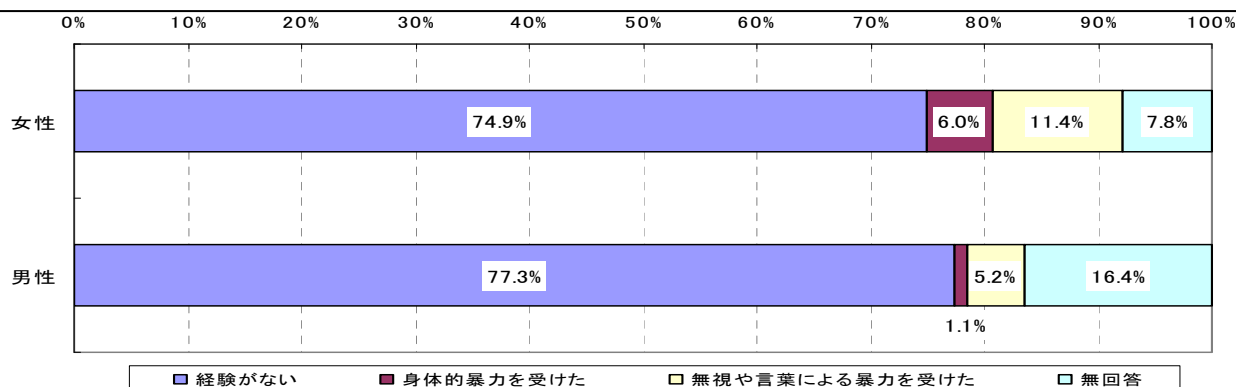
セクハラを受けた経験のある方は129人（12.7%）で、「職場で受けた」が83人（8.2%）、「地域活動で受けた」が11人（1.1%）、「その他」が35人（3.4%）でした。

女性が97人（17.5%）と大部分を占め、特に、「職場で受けた」が74人（13.4%）とその大部分です。また、男性でも30人（6.7%）の方が受けたことがあると回答しています。

男女雇用機会均等法の改正により、平成19年4月1日からは、職場においてセクシュアル・ハラスメント防止のための措置を講ずることが義務づけられています。

## 7 ドメスティック・バイオレンス

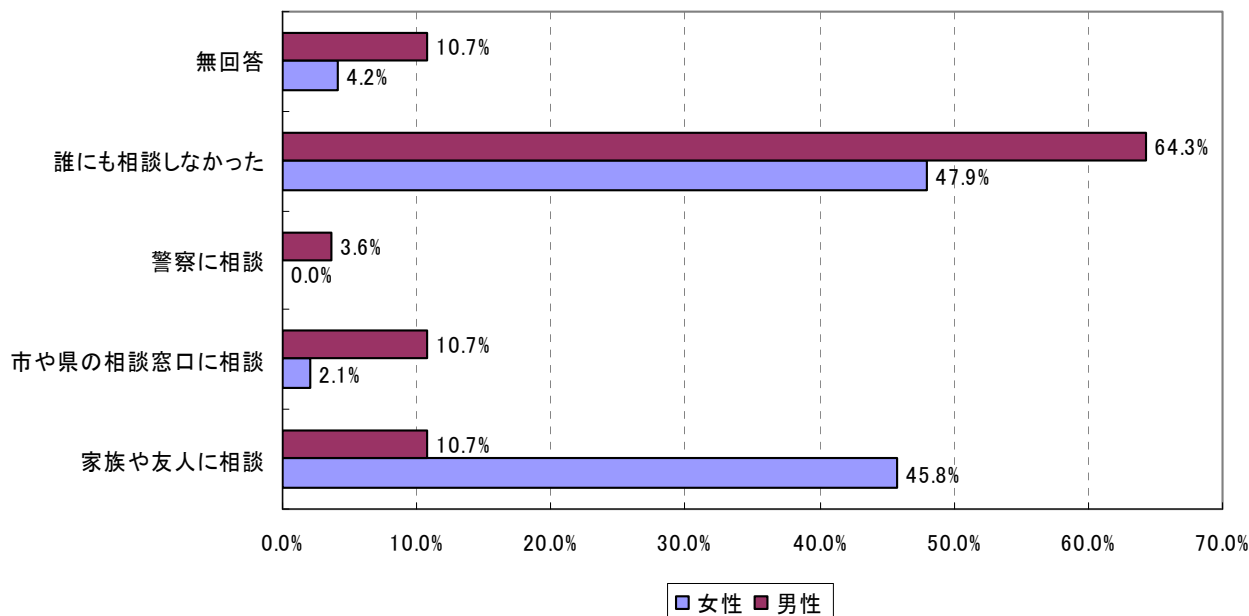
問19 あなたは、ドメスティック・バイオレンス（DV）と考えられるようなことを受けた経験がありますか。



「身体的暴力」や「無視や言葉による暴力」などのDV被害の経験者は128人、女性が96人、男性が28人、不明4人であり、女性の17.4%、男性の6.3%の方が何らかのDV被害を受けたことになります。

内閣府の調査（H21年3月公表）では、配偶者からの身体に対する暴力による被害経験がある女性は24.9%、精神的な嫌がらせや脅迫を受けた経験がある女性は16.6%となっており、4.4%の方が命の危険を感じたことがあります。

問19-1 DVを受けたとき誰かに相談しましたか。



被害を受けた女性のうち約半数の方は「家族、友人」に相談しています。一方、「誰にも相談しなかった」方も約半数いるという結果となりました。また、男性の場合、64.3%が誰にも相談していません。

問19-1-1 相談しなかった理由は何ですか。

	全体（性別無回答含む）		女性		男性	
相談するほどのことでもないと思った	15人	22.7%	7人	15.2%	6人	33.3%
自分にも悪いところがあった	15人	22.7%	12人	26.1%	3人	16.7%
相手の行為は愛情の表現だと思った	2人	3.0%	1人	2.2%	1人	5.6%
相談してもむだだと思った	27人	40.9%	21人	45.7%	6人	33.3%
その他	6人	9.1%	4人	8.7%	2人	11.1%
不明	1人	1.5%	1人	2.2%	0人	0.0%

誰にも相談しなかった理由について、女性の45.7%が「相談してもむだだと思った」と答えていることから、相談窓口や支援体制のPRと強化が急がれます。また、女性の26.1%が「自分にも悪いところがあった」と回答しており、いかなる理由においてもDVは許されるものではない事を啓発していく必要があります。



問 2 0 あなたはDVの相談窓口が県や市に設置されているのをご存知ですか。

	全体 (性別無回答含む)		女性		男性	
知っている	445 人	43.8%	261 人	47.2%	174 人	39.1%
知らない	450 人	44.3%	240 人	43.4%	205 人	46.1%
無記入	121 人	11.9%	52 人	9.4%	66 人	14.8%

「知っている」割合と「知らない」割合がほぼ同じになっています。「知っている」割合が、女性でも47.2%に止まっており、より一層のPRが必要です。

また、問 19 で「身体的暴力を受けた」、「無視や言葉による暴力を受けた」と回答した方 128 人のうち、DVの相談窓口の設置について「知っている」と回答した方は 58 人（女性 50 人、男性 8 人）、その割合は女性が 52.1%、男性が 28.6%であり、相談窓口があることを知っていても、窓口ではなく家族や友人に相談する方が多くなっています。